

8/9 沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故から15年 松川市長が記者会見

(以下、市長コメント概要)

15年前の平成16年8月13日、沖縄国際大学本館へ米海兵隊所属のCH-53D型ヘリコプターが墜落・炎上するという重大な事故が発生しました。

事故は、市民・県民に大きな衝撃を与えると同時に、まちのど真ん中にある普天間飛行場の危険性を改めて浮かびあがらせました。

周辺住民の危険性除去が喫緊の課題であると誰もが改めて痛感させられたはずですが、事故から15年が経過する今日においても、返還は実現しておらず、平成29年12月には、普天間第二小学校のグラウンドに米軍CH-53Eヘリの窓が落下するという重大事故が発生し、今年6月には、浦添市内の中学校のテニスコートへ同型ヘリの部品の一部が落下するという事故が発生しました。また、夜間・深夜にまで及ぶ訓練飛行や、外来機の相次ぐ飛来による航空機騒音をはじめ、基地を迂回しなければならない交通体系など、今なお市民の日常生活の様々な場面で基地負担が重くのしかかっており、市民の負担がすでに限界を超えていることは明白であります。

『返還合意の原点は危険性の除去及び基地負担の軽減であり、普天間飛行場の固定化は絶対にあってはなりません』

まちのど真ん中にある普天間飛行場の固定化・継続使用は絶対にあってはならず、この問題がこれ以上次の世代に引き継がれることがないように、一日も早い返還と、返還されるまでの間の危険性除去および基地負担軽減が目に見える形で実行されていくよう、あらゆる方策を講じ、粘り強く取り組んでまいります。

8/13 普天間飛行場への度重なる ジェット戦闘機の飛来について抗議・要請

外来機の飛来に伴う騒音については、市民生活に甚大な影響を与えることから、本市はこれまででも外来機の飛来禁止を強く要請してきたにも関わらず、8/11から普天間飛行場へジェット戦闘機が相次いで飛来し、本来穏やかに迎えるべき旧盆の初日であり、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故から15年目にあたる8/13においても頻りに離着陸を繰り返す状況が続いたことから、市長が沖縄防衛局長へ抗議・要請を行いました。

松川市長は、市民の負担は既に限界を超えており、市民が実感できる危険性除去及び基地負担軽減を強く求めている中で、このような更なる騒音被害は断じて容認できないと抗議するとともに、市民生活に十分に配慮するよう要請しました。



「イベント」
10カ月を通して様々なイベントが行われました。登山、野外炊飯、工場見学やクイズ大会など。初めは友達がおらず参加したくないときもあったイベントでしたが、徐々にクラスメイトと仲良くなり話せるようになったことで積極的に参加するようになり、最後に行われたクイズ大会では私のグループが優勝することができました。



- ①クラスメイトとの写真
- ②ルームメイトとの写真
- ③最後の授業での集合写真
- ④一番仲の良かった韓国の友人との写真

しくアドバイスをくださった先代の厦門留学経験者の皆様、本当にありがとうございました。

「イベント」
10カ月を通して様々なイベントが行われました。登山、野外炊飯、工場見学やクイズ大会など。初めは友達がおらず参加したくないときもあったイベントでしたが、徐々にクラスメイトと仲良くなり話せるようになったことで積極的に参加するようになり、最後に行われたクイズ大会では私のグループが優勝することができました。

最後に、厦門での経験は私にとって一生の宝物になりました。今回17代目として中国厦門に留学する機会を与えてくださった宜野湾市民の皆様、宜野湾市役所の皆様、そして優しくアドバイスをくださった先代の厦門留学経験者の皆様、本当にありがとうございました。

留学記 ニイハオ!
アモイ 中国厦門市 その4
第17期 海外留学生 知念佳奈

「帰国してからの変化」
約一年間中国語を勉強してきましたが、まだまだ私の中国語は未熟です。ですが観光で沖縄を訪れている中華系の方々の言葉を理解できるようになったことで、彼らに対する偏見が無くなりました。留学以前はスキルとして中国語を身につけることが一番の目標でしたが、中国でたくさん話せない人とも意思疎通できる喜びを知ったことで、今後も継続して語学を勉強し、自分の世界を広げたいと思うようになりました。